

# 都市部の外科医のままで 経験できなかつた、 多くの学びと人としての 成長を実感できる。



Profile

◎1995年／琉球大学医学部卒業、茅ヶ崎徳洲会病院 ◎1997年／庄内余目病院 ◎1998年／茅ヶ崎徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院 ◎1999年／松原徳洲会病院、茅ヶ崎徳洲会病院 ◎2000年／大和徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院 ◎2001年／宮古徳洲会病院 ◎2003年／中部徳洲会病院 ◎2016年／石垣島徳洲会病院院長就任

■日本外科学会専門医、日本救急科専門医、日本がん治療認定医、日本乳癌学会認定医、日本感染症学会認定医、日本ライアリーケア連合学会指導医、検診マンゴーフラム認定医

■TMAT活動（東日本大震災、ハイチ大地震、トルコ東部地震、フィリピン台風被害支援 等）

# 医療法人 沖縄徳洲会 石垣島徳洲会病院

院長 池原 康一

この地域に足りないものは何か?  
独自のカラーで存在意義を確立

徳洲会病院といえど24時間断らない救急等

の急性期が強み。しかし私が赴任した頃の当

院は、救急搬送患者数では県立病院が勝り、

むしろウォーリンの患者や急性期を経過し

た患者が多く、島内における当院の役割が明

確必要だと考えたのです。

そこで、当院がこ

の地域で更なる発展を望むには、今まで築い

てきた良いものは継承しつゝ、独自のカラー

が必要だと考えたのです。

当時この地域に足りなかつたものは、地域

に根ざす「在宅医療」、「透析医療」、「健康診断」。在宅医療は、年々高まるニーズで医療が追いついでいる。石垣島も含め沖縄県ではCD患者が年々増加していま

す。島内全ての医療機関で透析のキャバシ

ティがオーバーし、旅行透析も断らざるを得

ないという状況にありました。幸い当院には

ハード面での余裕があり、徳洲会グループか

らの人的応援も得られる。私たちが頑張れば、

在宅やCKDの患者が安心して地域で生活で

きるようになります。また、観光ブームに伴

い就業人口が増加する石垣島において、働く

人々の健康を担保する予防医療の必要性を強

く感じ、健診にも注力することとした。

これらを当院のカラーとして打ち出すこと

で、「在宅医療はどうすれば良いのか?」「健

診はどうして受けたら良いのか?」という方々

に、「徳洲会病院に行けば大夫」と、いつ

いただけることが私の目標です。最近は少

しづつ地域に認知されてきており、クリニック

やソーシャルワーカーからの紹介患者が増

加し、県立病院等との連携も深まり、地域と

の良い関係ができつあると実感しています。

科医としての伸びしろは、そう多くはないか

もしれない。しかし、離島病院の院長という

経験によって、人としてはまだ成長できるの

ではないか」ということ、徳洲会グループの

副理事長から「何ををりたい」という言葉をかけられました。

私はこれを、「本腰を入れて取り組むば、後

は助けてくれるのだ」と解釈し、当院の院長

となることに決めました。

徳洲会グループは、都市部の病院ではAI

診はどこで受けたら良いのか?」という方々

に、「何ををりたい」という言葉をかけられました。

私はこれを、「本腰を入れて取り組むば、後

は助けてくれるのだ」と解釈し、当院の院長

